

## 三世代ふれあいイベント 参加者募集



おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん  
僕も私も家族みなでご参加ください。



野菜スタンプカードを作ろう！ ～年賀状にも活かせるよ！～

日 時：令和2年11月1日（日）  
午前の部 午前10時～  
午後の部 午後1時～

会 場：高洲地区交流センター  
募集人員：各回50名

どなたでもお気軽にご参加ください。  
小学3年生以下はお家の方と同伴で！！

申込受付：9月29日（火）～ 先着順

申込方法：交流センターにある「申込用紙」に記入して提出してください。



## 防災研修会 参加者募集

災害発生時の要支援者への対応を学ぼう！



今回は、災害発生時の要支援者への対応に的を絞って2件の講演を予定しています。

日 時：令和2年10月14日（水）  
午後2時～4時

場 所：高洲地区交流センター 集会室

講 演：1 「災害時における避難行動 要支援者の支援について」  
藤枝市福祉政策課 桑本 哲宣 氏

2 「災害時の要援護者の防災」  
VCF（災害ボランティア・コーディネーター藤枝）  
大石 勝野 氏 村松 みつ江 氏



講演会



福祉対策課からは「自治会・自主防災会での事前準備と災害発生時の福祉避難所」について、VCFからは「防災3・3・3の原則やコロナ禍などにおける感染症に配慮した避難所での行動」などについて解説していただきます。参加ご希望の方は、10月3日（土）までに高洲地区交流センターにお申込みください。

# 高齢者の為の「支え合いの地域づくり」 始動

高洲地区社協では「支え合いの地域づくり」の取り組み方針として、2本の柱を立て、今年度内の事業の試行開始を目標として活動を進めています。

- 柱1：高齢者の生活を支える手助けや外出支援をしよう！
- 柱2：介護予防や孤立防止のための通いの場をつくろう！



## 柱1の取り組み-1 日常生活のちょっとした困り事をお手伝い！

庭の草取りや不燃物のゴミ出しなどにお困りの方を支援すべく、ルール作りを進めています。11月には利用会員やボランティアの募集を始めますので、ご協力をお願いします。また、11月中旬に、生活支援活動の実績のある『かんばら応援隊』『大洲手助け支援部』の方の講演会を開催予定です。聴講希望の方は高洲地区交流センターにお申込みください。

## 柱1の取り組み-2

### 移動を支援 運転免許を返納しても大丈夫！

スーパーが遠くて買い物にお困りの高齢者を支援するサービスの試行を4つの町内会（築地、築地上、大新島、与左衛門）で開始すべく、運転ボランティアの募集と利用希望調査を実施しています。4町内会以外の方でもボランティアに協力いただける方はご連絡をお願いします。

## 柱2の取り組み

### 町内会館に集合！ みんなで介護予防しましょう！

「介護予防や孤立防止のための通いの場」の立ち上げに向けて、住民主体による「アクティブクラブ」の町内会単位での設置を目指しています。中心となる若返り運動サポーターとして23名が養成講座を修了し、9月末の「アクティブクラブの立ち上げに関する説明会」を経て間もなく活動開始の段階になっています。

## 運転ボランティア 大募集

あなたのチカラをちょっとだけ  
貸していただけませんか？

### 【運転ボランティアになれる方】

- ① 26歳以上80歳未満で健康な方
- ② 安全運転を心掛けている方
- ③ 市が指定する講習の受講が可能な方  
(12月頃に8:30~19:30の講習を予定)

ご協力いただける方は高洲地区交流センターにご連絡ください。

## ふれあいサロン情報交換会開催 - 実行組織を繋ぐ事業 -



高洲地区には8つのふれあいサロンがあり、これまで活発な活動で高齢者福祉の増進に力を発揮してきました。ところが今年はコロナ禍による制約があり、運営者はいつも以上の困り事を抱えています。

そこで、9月11日に高洲地区8サロンの運営者と愛華の郷の担当者が高洲地区交流センターに集まり、情報交換会を行いました。他のサロンでの「種々の工夫」は大いに参考になった様子でした。一方、サロン活動継続のための人材育成は共通する未解決の大きな悩みとして議論されました。今回の情報交換がサロン活動の更なる活発化に少しでも役立つことを期待しています。



## ふれあいサロン ヒルズ きずな

8月27日、高洲第4自治会館に「ヒルズきずな」を

訪ねました。今年1月の設立後、1回開催したところでコロナ禍により中断していましたが、感染防止に最大の注意を払いながら、ようやく6月下旬に活動を再開しています。当日は愛華の郷の出前講座が行われ、35名の会員が暑さに負けず、元気に、また、とても楽しそうに参加されていました。



鈴木副会長は「会員さんが『また行きたいよ』『楽しいよ』とっていただける会にしたい」と語られています。会員数に比べてボランティア数が少ないながらもベテラン民生委員の方々の強力な



バックアップを受けて頑張っておられ、今後の活動が楽しみです。皆様方からの応援をお願いします。